

平成27年度 第1回福岡県助産師会スキルアップ研修会実施報告

「途上国からの学び」

～フィリピンで活動する日本人開業助産師の実践から～

講師：フィリピン バルナバクリニック 富田江里子助産師

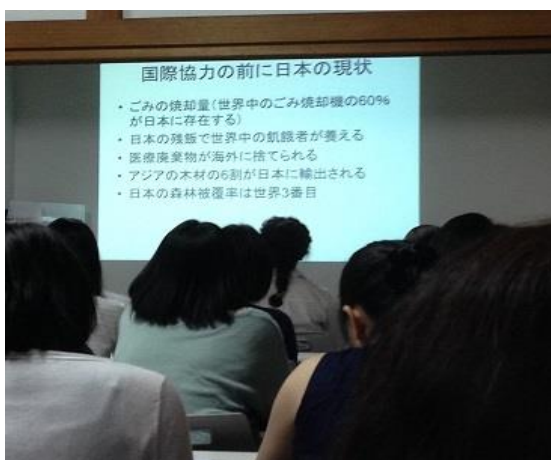
助産雑誌連載でおなじみの、あの富田さんが福岡に！

国内活動のための帰国中というお忙しい中、たくさんの貴重な写真を資料としてご用意頂いてわざわざ神戸からお越し頂きました。

確かに状況は厳しい。物資的に設備的にも、もちろんマンパワー的にも限られた条件下で活動するには、日本的に言えば「手に負えない」ような症例ばかり。病状が深刻だけでなく、家族背景が・生活環境が・経済状況が…といくらでも難問がくっついていく。それでも「あーっもう無理！」と逃げ出すことなく、むしろじっくり現地に根を張って日々向き合っておられる富田さんの原動力は何なんだろう？と感じずにはいられなかったのは私だけではないと思います。

一方で強調されていたのが、人間本来の生命力とそれを損なわない暮らし方や食べ方により現地の人々は強いという事実です。今と違って昔の日本人も粗食・地産地消で強かったはず。でも日本もフィリピンも食のグローバルイズムの波にのまれているのも事実で「波」は企業の利権のみならず、経済や政治的な思惑も孕み、環境や文化を侵しながら止まる所を知らぬかのよう。少なくとも「命に係わる」立場にある私たちが関心を持ち監視していかなければならない問題です。

クリニックでの毎日はシビアで個人の力でどうにかならない事の方が多いのでしょうが、決して鼻息荒くはなく(すみません)、自然体な富田さん。状況は違えど、私達も日本のそれぞれの置かれた場所で使命を果たすことの大切さを言外に伝えて下さったように感じました。



(文責；教育委員 小石原)